

はてんかみマダマ

通称: 津田南美事務所

編集人: 葛西よう子

「長崎で活動する女性グループを知ろう 交流はう 親しくしたい」
(不遇の今年が目ざへす) として連年出まらな

梅の枝もすかり散た四月中旬
市民会館第一会議室に「女の会」の
栗山さんをお迎えしました
「女の会」通信の編集責任者
です。まず「女の会」とは？
「会」が出来て七年か八年です
学校時代の友人、労働の会合で
知りあつた人等々、友人達が
集まってきました
それに講演会や映画をみると
そこに出席した人々の中から
がふえていきました
今、30名位かしら？
通信の編集責任者は誰様？
「女」であることと見えて来るもの
社会に出て感じる女であること
界、それ等の中から勉強会
若くしてはたかたが三つ
あつた合併したのがはてんか
みです
「集まるは若者を話しあふ
ます。三つあるべきだ」とは
自分たちが思ふか？が先

「3回の訪問」
「長崎の会」
「長崎の会」を二つにしたい
改メ

「三つあるべきだ」と全員が動く事か、はてんか
みです
女の会、ううのは実に間口が広いでしょう「会」
に引くべきと自分を見失くしてしまう、なか
うだーと思はれ、事を義務的にしたくない
のです
「会」は、ラエティに属しています。色々な職業の人
がいます。主婦もいます。20才台から40才台まで
います。例へば、主婦は子育てをします。何か
イベントをする時は、はてんかみ、年三回とい
う年もありです。例へば「通信」が中心です
市役所を三つの地域に分けて読書会をしてきた事
もありです。会中絶つてしまふ、その分には
生協のグループとつながります
積極的行動を促す中核として事務局(4人)
があります。何かイベントを行う時には、5人6人
実行委員会を作ります
会費は月300円、事務局の会費、通信の編集
会費、おまけの会費があります
会員の家は、みんな行きた事があります。引越
しは互に手伝い合います。例へば、夏の合宿も
会員の家でやります
「三年前迄は年一回講演会をしていました
最初が栗山芳枝さん(三原家斗室にのりた

加才台の方、自分史を音ひする人)の「女の自立—自分の意志で生きる事」その他新玉泉閣の小沢遼子さん、雑誌「あさひ」の斎藤編纂長、オキナ(行か

